

第四十五回 文化祭参加

とき 令和五年十一月五日(日)
十二時半開演(十六時半終演予定)
ところ スターツおおたかの森ホール【入場無料】

邦楽三曲演奏会

主催 流山市文化協会邦楽三曲部
流山市文化祭実行委員会
流山市教育委員会
流山市
後援



スタートズおおたかの森ホール TEL 04-7186-7638
流山おおたかの森駅下車 徒歩1分

入会してみたい方、箏や尺八を習ってみたい方など、
お気軽にお問合せ下さい。

流山市邦楽三曲会事務局

〒270-0101
千葉県流山市東深井 493-5
会長 足立 久奈駕
TEL 04-7155-4371

12. 「愛の花」 あいみょん 作曲 水野 由果梨 編曲

箏 江藤 沙耶 折戸 美暁 金井 雄一
小井土 瑠冴子 寺坂 碧海 中村 陽咲
中村 裕子 西村 勝利 西村 元子
藤原 風輝 三好 琴 茂木 日南
十七絃 本田 恵子
三絃 水野 由果梨

あいみょん作曲。愛の花。
NHKの朝ドラの主題歌にもなっております。
今回は、愛の花を箏と十七絃、そして三絃にて演奏させていただきます。

13. 「都踊」 宮城道雄 作曲

箏 久馬 みさこ 山崎 みどり
三絃 花山 富佐子 竹内 美智子 花井 マサミ
尺八 山村 雅以山 高橋 碩山 福田 瑤山

京の春は円山公園の桜と都踊りで始まると言われています。「都踊」とは祇園の舞妓によって演じられる年中行事で、その豪華絢爛美しい情景の様を、箏、三絃、尺八で表現しています。

14. 「わらべ唄」 佐藤義久 作曲

第一箏 川瀬 弥 磯貝 充希子 田中 桂子
吉住 秀之 森 慎子 河田 とし子
第二箏 南海 佳子
十七絃 穴澤 沙来

わらべ唄の多くは遊びと共に生まれたもので、長い歴史の間に伝承、洗練されてきました。母国語である日本語から生まれた旋律とリズムは美しいものです。「通リゃんせ」「ずいずいずっころばし」「四方の景色」「かごめ」「あんたがたどこさ」の5曲と断片的な遊び唄から構成されています。

15. 「さらし風手事」 宮城道雄 作曲

高音 熊田 雅多盈 飯泉 歌貴純
村野 雅文美 平川 澄静
低音 佐藤 雅千盈 福本 さざみ

1952年作曲、箏高低二部合奏曲。古典曲にある「さらしの手」をモチーフとして、それをさまざまに変奏し、発展させた曲。

演奏曲目

1. 「日本のうたメドレー」 水野由果梨 編曲

箏	江藤 沙耶	折戸 美暁	小井土 瑠冴子
	鈴木 郁美	寺坂 碧海	寺坂 瑛果
	中村 陽咲	西村 勝利	藤原 風輝
	水野 由果梨	三好 琴	茂木 日南
十七絃	中村 裕子	西村 元子	
三絃	エモリ・ルイ	金沢 尚樹	本田 恵子

「お猿のかごや」「ちいさい秋みつけた」「うさぎ」そして、「村祭り」をメドレーで綴ってある楽曲です。
今回は各曲の間に、ナレーションを入れてお届けしたいと思います。

2. 「たなばたさま・チューリップ」 野村正峰 他 編曲

第一箏	須賀 ことは	新藏 ゆう	須賀 ひかり
	長谷川 雅楽柚		
第二箏	白川 雅楽枝		

幼稚園や保育園で習っている馴染みのある童謡を、お箏で弾けるようにお稽古しました。
本日初舞台の子供たちをどうぞ温かく見守ってください。

3. 「六段の調」 八ツ橋検校 作曲

箏	渡辺 一司	足立 久奈駕	白川 雅楽枝
三絃	久馬 みさこ		
尺八	渡辺 重雄	橋本 昭	渡辺 均

箏曲を代表する格調の高い名曲の一つです。
箏独奏曲として作曲されたものですが、今回は、三絃と尺八を加えての三部合奏にて演奏いたします。



4. 「鷹」 沢井忠夫 作曲

第一箏	林 優菜	池田 あかね	杉山 紗良
	福原 葵	青木 璃音	後藤 美羽
	矢久保 桜	吉田 海人	渡邊 康香
第二箏	南海 佳子		

華やかに飛翔する曲の感じから「鷹」と名付けられました。この曲の大部分がとてもロマンチックで、鷹の勇猛な姿よりも、悠々と飛ぶ姿を想像させます。1972年2月作曲。第一箏は流通経済大学付属柏高校・中学校箏曲部有志による演奏です。

5. 「尺八曲 雲井獅子」 作曲者不明

琴古	白鳥 良章	渡辺 重雄	橋本 昭
	渡辺 均	渡辺 修身	
都山	山村 雅以山	牧野 栞山	中村 智山
	高橋 碩山	野澤 勉	豊澤 栄秀
	福田 瑤山		

尺八古典本曲、獅子もの一種です。神楽の獅子舞の笛の囃子をもとにしているといわれています。今回は琴古流、都山流の垣根を越えた尺八メンバーで演奏致します。尺八らしい迫力のある演奏をお楽しみください。

6. 「虹」 松本雅夫 作曲

箏(虹)	菊井 歌由音	花山 富佐子	細野 ゆき子
	野口 雅楽響		
箏(乱)	佐藤 雅千盈	吉浜 雅楽澄	熊田 雅多盈

平成6年1月作曲。法隆寺西院伽藍の配置計画図の研究の課程で、千三百年前の歴史の「虹」が見えて来たので、何とかふさわしい曲をと思ひ、一方でリズム分析をしていた「乱」の絶妙に圧倒されていたので、分析を基に作曲。

7. 「信濃の抒情」 平井康三郎 作曲

第一箏	須賀 雅楽薫	林 雅楽優	上野 真由美
	鈴木 優	加藤 泰子	坂本 志津恵
第二箏	熊田 雅芳	白川 雅楽枝	高島 敏子
	海老原 久美子	飯塚 文乃	栗原 佐知
十七絃	長谷川 雅楽柚	上野 美桜	
尺八	山村 雅以山	高橋 碩山	野澤 勉
	豊澤 栄秀	福田 瑤山	

第一章から第三章の三つの楽章よりなっている抒情曲です。
第一楽章は「伊那の春」伊那節を取り入れた陽気な合奏。
第二楽章は「浅間の馬子唄」尺八の主奏する小諸の馬子唄。
第三楽章は「木曾のなかのりさん」の節を器楽的に取り扱い、最後には一斉に木曾節から馬子唄風のコーダで結んでいます。

8. 「白の声」 山登松齡 作曲

箏	朝岡 祥敬	国島 恭敬	加藤 知美
	杉田 幸敬		
三絃	折笠 治祥敬		
尺八	牧野 栞山		

歌詩に「夏衣」「薄もの」「薄衣」「薄紫」など、「うす」がつく言葉をつづりながら、四季の情景をうたっています。音楽的には、春夏秋冬の切れ目ごとに合いの手があり、調弦を変えながら華やかに展開、夏の後の合いの手には「六段」の初段を地として合奏、曲を盛り上げていま

9. 「千鳥の曲」 吉沢検校 作曲

尺八	白鳥 良章	渡辺 重雄	橋本 昭
	渡辺 均	渡辺 修身	豊澤 栄秀
箏本手	穴澤 沙来	川瀬 弥	森 慎子
箏替手	南海 佳子	河田 とし子	

古今組と呼ばれる曲の一つです。『古今和歌集』『金葉和歌集』から千鳥を詠んだ和歌二首を探り歌としています。古今調子という独特な箏の調弦法が使われています。箏の雅な音色と尺八の響きのハーモニーをお楽しみください。

10. 「落葉する頃」 筑紫歌都子 作曲

第一箏	菊井 歌由音	野口 雅楽響
第二箏	野口 理沙子	
十七絃	細野 ゆき子	
尺八	野澤 勉	

昭和26年の作曲。
落葉が一片二片とおちはじめ次第にハラハラと散っていく晩秋の惜別の情を表した手事曲であります。

11. 「三弦 茶音頭」 (本手) 菊岡検校 作曲 (替手) 不詳

替手	吉田 雅鳳		
本手	須賀 雅楽薫	西田 雅楽妙	松浦 雅楓緒
	安蒜 彩乃		

作曲は天保年間。六下り調子という変わった調子で作られた原曲に、いつの頃からか、二上り調子の替手が付けられるようになった。
従来の三曲合奏(箏・三弦・尺八)とは趣の異なる面白さが好まれて、皆の知るところとなった。